
Angel Beats!

ちか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Angel Beats!

【コード】

N6962M

【作者名】

ちか

【あらすじ】

Angel Beats!と、オリジナルのディーグレイマンをコラボ!

ディーグレイマンから出すのは作者のオリジナルキャラクターなので、

ディーグレイマンが好きな人はちょっと拍子抜けしてしまうかもしれませんが。立ち読み感覚でいいので、軽くみてみてください。

あ、それから、この小説の題名を募集します!『一言』で書いてください。

あらすじ：記憶が無い少女、優香が死後の世界へやってきた。
そこで出会った『孤独人形』……。死んだ世界戦線VS天使。
死後の世界を手に入れるのは？そして、優香は思い出す、悲しくも
あり、楽しくもあつたあの時を……！

始まりの前のプロローグ（前書き）

原作名に狂乱家族日記と書きましたが、出てくるのは『孤独人形』
だけです。

狂乱家族日記が見たい！という人は、今すぐ回れ右！です。

始まりの前のプロローグ

ここは………？

私は周りがコンクリートで覆われた長い通路の真ん中で仰向けに寝ていた。通路には所々扉がある。

辺りは薄暗く、通路の奥は暗くて何も見えない

私は………誰だっけ………？何でこんな所に………？
頭の中に霧がかかったように、霧がかかっていて、何も思い出せない。思い出せるのは自分の名前、

神崎 優香。

誰か来る！

足音がじよじよに近ずいてきている。

とりあえずこんなところで寝ているのはいけないだろう。身体を起こし警戒する。

「お前………死んだ世界戦線の仲間か？」

通路の奥から現れたのは少し赤みがかかった茶髪の髪をした、私と同世代ぐらいの男だった。

「死んだ世界戦線？」

「知らないってことは違うのか……。ってことは新しく来たやつか……?」

男は何かをブツブツ言っている。

「いいから質問に答えなさい。死んだ世界戦線って?」

「ん、ああ。俺はこの世界に来たばかりだから俺よりくわしいやつに聞いた方がいい。

ついて来てくれ」

この世界……。死んだ世界戦線……。ここはおそらく……
死後の世界……

この世界について知るために私はこの男についていくことにした。

始まりの前のプロローグ（後書き）

プロローグだと思って書いたので今回は短いです。

でも次からは長くなる（かも）ので、どうぞよろしくお願いします。
あと、感想、指摘、アドバイスなど、ありましたらどうぞよろしく
しくお願いします。

死後の世界（前書き）

今回は多分長いです。あ、やっぱり長くないかもしれません……

ではでは第二話スタート！です。

死後の世界

〈校長室〉

「この子ね。新しくこの世界に来た子っていうのは」

いすに座ってこっちを見ているのは、私が着ているのとは違う服で、肩の所には、『SSS』と書かれたワッペンをつけてある服を着ている。名前はゆりというらしい。

「ああ、そうだ」

と、男 音無と、ついさっき自己紹介をしていた が言う。

「他の皆は？」

「いま遊佐に頼んでいつものメンバーを呼んでもらっているわ」

この二人以外にも仲間がいるのか・・・

「それで？この世界のこと。教えてくれるんじゃないの？」

「ああ。ごめんなさい。いいわ。この世界のこと、教えてあげる。」

そついうとゆりはいすに座り直し、語り始める。

「まず最初に。あなたがここにいるってことはあなたはもう死んでいるってことよ」

「そう」

「あら、驚かないのね」

「死んだ世界戦線って音無が言ってたから」

「以外と順応性があるのね……私たち『死んだ世界戦線』のメンバーは、この世界で消える……つまり成仏しないように天使と戦ってるのよ」

「なるほどね……」

「そこであなたにこの『死んだ世界戦線』のメンバーになってほしいのよ」

「話しが突飛ね。……いいわ。入る。わたしも『死んだ世界戦線』に」

「ありがとう。よろしくね。それと、私のことは『ゆりっぺ』でいいわ。皆もそう呼ぶから」

「わかった。よろしく。ゆりっぺ」

……とりあえず、悪い人達じゃなさそうね……

ゆりっぺと私は硬く握手を結んだ。

「あ、そうそう。それとこの校長室に入るには合言葉が必要だから」

「へえ……。言わないで入ろうとするとどうなるの?」

「ああ、それは」

「早まるなゆりっぺ!!」

ゆりの言葉をさえぎって校長室にハルバードを持った男がよく分からないことを言いながら入ってきた。……あれ？合言葉は？

私がそう思った矢先、ハルバードを持った男は横から来たハンマー（？）に吹っ飛ばされて、窓の外へ飛ばされていった。……なるほどね。

「合言葉を言わないとああなるのよ」

「……みただね……」

「馬鹿だ。自分が作った罠にはまってやがる……」
音無が一人あきれた声を出していた。

「で、彼は？」

「彼は野田君。この戦線一の馬鹿よ」

「ハハハハハ……」

ゆりの言葉に私は苦笑いで返した。

「……お前、笑えたのか……」

私の隣で音無がぼそりと何かを言った。

「ん？なに？」

「……いや、なんでもない」

「ふーん。……あ、そういえばこの戦線のメンバーはいつたい何人くらいいるの？それなりにいそう
なんだけど……」

「鋭いわね。今召集をかけてもらっているけど、今集めてるメンバー以外にも結構いるわよ。大体30人ぐらいいるんじゃないかしら」

30人……顔を覚えておく必要があるか……？

「それと天使のこと、まだ話してなかったわよね」

「さつき少しいったけど、まだ詳しくは聞いてない」

「天使というのは、この世界の生徒会長のことよ。私たちのことを成仏させようとしてる」

「……じゃあ戦ってるっていうのは？」

「戦わないと消される。私達はそう考えているのよ。でも、私達から仕掛けないと武器を使うことはないから安心しなさい」

「武器？」

「それは経験で覚えなさい。私達もそうしてきたんだから」

「わかった」

天使の武器・・・いつたい・・・？

「・・・そういえば制服をまだわたしてなかったわね。皆が集まったときにでもわたすわ」

ゆりはそういうと手に持っていたトライシーバーに向かって何かを言っている。

私はその間に音無に聞きたかった事を言ってみる。

「音無。もしかしてこの世界には生きていたころの未練がある人が集まるんじゃないの？」

「さあな。そうかもしれないが俺もまだ来たばかりとっていいからあまりわかんねーや」

「そう・・・」

・・・この世界には絶対何かある・・・

私が考えをめぐらせていると、扉の外で何かを言う声がして誰かが入ってきた。

死後の世界（後書き）

若干キャラ崩れてるかもです。
音無、こんなキャラだったっけ……？
とりあえず次回予告です。

〈次回予告〉

「おいおい、こんなやつで大丈夫かよ？」

「あさはかなり」

「『神も仏も天使も無し』」

「彼女は……『孤独人形』よ」

以上、次回予告になってない次回予告でした。

孤独人形（前書き）

更新遅くなつてすみません！

まあこんな小説、誰も見向きもしないと思いますが。

感想も無い、

評価も無い、

お気に入り登録は1件。

ほんとぼろぼろですね。

では、第2話、『孤独人形』をどうぞ。

孤独人形

「よう、音無！その子が新しいメンバーか？」

音無と仲がいいのか、親しげに話しかけているのは青い髪をした少し目がたれた男だった。

「ああ。こいつが新しくメンバーに入る」

「優香です。よろしくお願いします」

音無の言葉に重なるようにして自己紹介をする。

少したれた目、人懐っこい様な笑み……なんだか懐かしい……

誰だか思い出せないが、たしか彼の髪はオレンジ色だったはず……

「そっぴやさつき野田が来なかったか？先に来てたはずなんだけど……」

野田？ああ、そっぴえばさつき……

「あいつならさつき校長室の罨にはまって吹っ飛ばされていったぞ？」

「アホだ。自分が作った罨にはまってやがる……」

若干違うが、さっきの音無と同じことを言っている。

と、そのとき。また扉が開き、ぼろぼろになった野田と、七人の男女が入ってきた。

「うん。そろったわね。紹介するわ。彼女は優香。新しくこの戦線に入ることになったわ」

「よろしく」

適当に頭を下げたあいさつをする。

「おいおい。こんなやつで大丈夫なのかよ？」

扉の横にいた一見ヤクザに見える　　というかもうヤクザでいいよ

ね　　男が声を上げる。

「今のは藤巻君。武器は……なんだっけ？後で聞いておくといいわ」

ゆりが横で紹介を始める

「その隣の蒼い髪をしているのは、日向君。これは知ってるわよね。見た目通りのちゃんぼらんだけどやるときはたまにやるわ」

「よろしく……って！全然フォローになってねーよ！！」

日向がつっこむがゆりは無視して紹介を進める

「その隣のいちいち眼鏡を持ち上げて知的に話すのが高松君。実は馬鹿よ」

「……よろしく（カチャリ）」

眼鏡を持ち上げてあいさつをする高松。馬鹿……？

「それと棚の影にいるのが椎名さん。口癖は『あさはかなり』よ」

「あさはかなり」

「それあいさつじゃないじゃん」

わたしはツツコムけど誰も反応してくれなかった……。

「ほかにも」

ゆりは次々と紹介していく。

柔道の五段をとっているため、皆から『松下五段』と呼ばれている、松下。

特徴がないのが特徴の大山。

『誘導部隊』のリーダー、岩沢。

「それと、最近入ってきた音無君。今は記憶がないわ」
「改めてよろしくな。優香」

「……あれ？一人少ないか？」

日向が周りを見渡しながら言う。

「……あ本当ね。日向君。彼女はいつもの所にいると思うからつれてきて」

「おれかよ……」

「あなたに一番心を開いているのよ」

「そうか？さして変わらないと思うんだが……？」

「いいから早く行きなさい！」

「へいへい」

その後もぶつぶつ文句を言いながらも、校長室を出て行った。

「あ、ちょうどいいわね。この制服、渡しておくわ。後で着替えておきなさい」

私がゆりに渡されたのは『SSS』のワッペンが付いている、ゆり達と同じ制服だった。たぶんこれが『死んだ世界戦線』の制服でしようね……。

「それと、いい忘れてたわ。この部屋に入る合言葉は、『神も仏も天使もなし』よ」

「わかった。ところで、あと一人はどんな子？」

「……彼女もおそらく記憶が無いわ。名前も覚えてないみた

いね。何もしゃべらないうえにいつも無表情。まるで人形よ。だから彼女は

形『なのよ』

彼女は『孤独人

孤独人形（後書き）

はい、新キャラ2人目です。

名前とかはそのうち分かるようになるかと。

……いや、次回の話でわかるかな。

では次回、『記憶』であいましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6962m/>

Angel Beats!

2011年10月7日15時28分発行